

## 令和5年度三田市高校生議会 質 問 書

**【質 問 者】** 2番 有馬高校（全日制）2年 太田 優花（おおた ゆうか）

**【担 当 課】** 学校教育部 学校教育課

**【答弁予定者】** 教育長

**【質 問 事 項】** 生徒間のいじめが原因で学校に行けない人を減らすにはどうしたらよいか

### 【質 問 内 容】

2番 高校生議員の有馬高校2年の太田 優花です。私からは「生徒間のいじめが原因で学校に行けない人を減らす対策について」質問します。

私は友達がいじめに関わったことがあったり、私自身がいじめについてのニュース番組を見たことがあり関心があったため、いじめについてのテーマに決定しました。三田市の不登校児童の減少をめざしています。

現状、兵庫県の小中学校の不登校児童・生徒は1.4万人です。さらに全国的に見ても10年連続で人数が増加していることがわかっています。「令和4年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果概要」によると、全国の小学1年生の不登校人数は約6600人であるのに比べ、中学3年生は約7万人となっており、年齢が上がるほど人数もおおくなっています。

いじめの認知件数自体は、小学生で多く中高生になるにしたがって少なくなっています。しかし、小学校では移動授業や選択授業がないため担任の先生との距離が近く悩みや相談を打ち明けやすくなっていますが、中学・高等学校では担任とのかかわりが減ってしまうため打ち明けにくくため込んでしまっていると考えます。

このことから、悩みや相談を打ち明けられる機会をつくるべきだと思います。実際に、現在三田市には自宅訪問やフリースペースなどの場所はありません。しかし、高校生など同年代が相談をうけつけているところはありません。そこで、私はリモートの座談会を開催することを提案します。リモート座談会とは相談に乗ってほしい中高生、相談に乗りたい高校生やその学校のスクールカウンセラー、フリースクールの大人の方が主として語り合う会です。

実現することによって悩みをうちあけられ気持ちが楽になり、学校ではなかったとしても社会とつながりたいという意欲がわき、完全な不登校になってしまう生徒が減ると思います。リモートにすることによって、外に出られない子でも参加できるという効果があります。

私達高校生も話を聞く相談に乗るというかたちで、街づくりに参加することができます。高校生と連携してリモート座談会をひらくという新しいプロジェクトの始動について、市の考えをお聞かせください。

---

### 【答 弁 内 容】

私からは、「生徒間のいじめが原因で学校にいけない人を減らす対策について」お答えします。

議員ご指摘のとおり、全国的に不登校の児童生徒数は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、ここ数年は増加傾向にあります。本市の公立小中学校においても同様に増加の傾向にあり、市教育委員会としましても現状に憂慮しております。

不登校の要因や背景は様々で、中には複雑に重なったり、関係している場合も多く、単純に原因が特定しにくい状況にあります。

そのため、一人一人から話をよく聞き、それぞれに応じた適切な支援をおこなう必要があります。しかしながら、不登校状態の子どもの中には、自分の思いを上手く保護者や先生に伝えることが出来ず、誰にも相談できないため一人で悩んでいる状態が長く続くこともあり、その間は学校や関係機関の支援が手薄な状態が続く期間が生まれてしまいます。また一方で、お子様が不登校になった保護者の方からは、学校以外で悩みを聞いてくれたり、相談できたりする場所も少ないので、気軽に相談できる場所があればうれしい、といった声を聞いております。

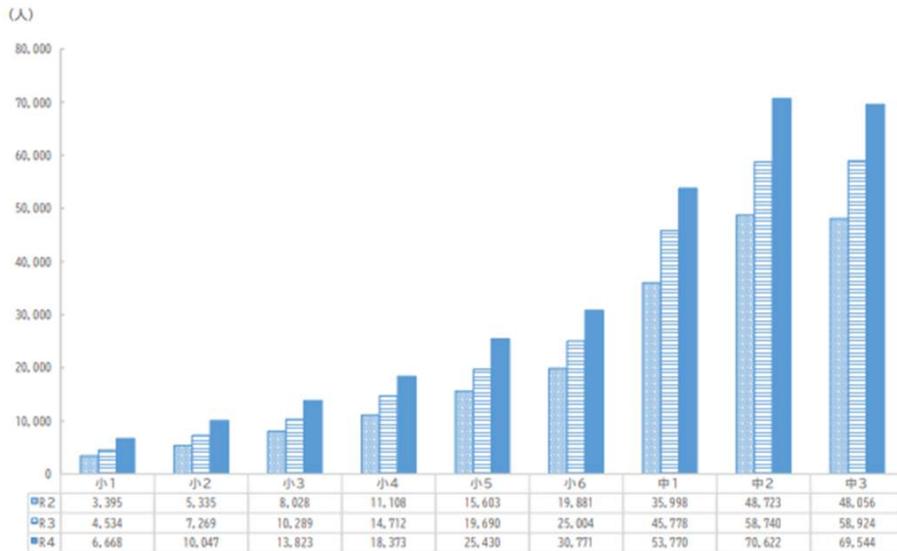
市教育委員会におきましては、令和4年10月より子ども達が持っているタブレット端末から兵庫県が実施しています「ひょうご SNS 悩み相談」にアクセスし、利用できるように整備しています。相談実績は令和4年度が14件、令和5年度は11月末現在、すでに14件となっており、学校と情報共有が可能な相談については当該校が対応しております。中には、相談によりいじ

めを認知し、解決につながった事案もございます。市教育委員会では、さらに、今年度よりメタバース空間を活用した不登校児童生徒支援の研究をすすめています。これは子ども達が持っているタブレット端末を利用して、不登校の子ども達が話をしたり、勉強したりする機会をメタバース空間の中で作ろうというものです。現在はメタバース空間の中で子どもたちの質問に答えたり、簡単な相談に乗ったりすることができるAIの研究を大阪教育大学の協力を得ながら研究しています。このAIには、過去に不登校を経験し、三田市の教育支援センターである「あすなろ教室」に通っていた先輩の経験談などが反映されており、将来的には、不登校の悩みを誰にも相談できない子どもたちの話を聞いて、AIがアドバイスを送ったり、適切な支援につなげたりする効果が期待されます。

いじめや不登校等の問題は、学校のみならず、社会全体でもその解決に取り組む必要がある問題でもあります。解決に向けては、大人だけでなく、子ども達が主体的になることも重要です。議員ご提案のリモート座談会につきましては、まさに、不登校等の課題を解決するため、当事者と同年代の、同じ目線をもつ人たちが考えたアイデアであり、加えて、いじめや不登校で悩んでいる子ども達が身近な人に話すきっかけとしても期待できるものと考えます。また、高校生にとっても、自分たちで考えた、自分たちの経験を活かした活動を行うことで、自己有用感が高まり、そこから自身の夢や目標を定めるきっかけにもなり得ます。

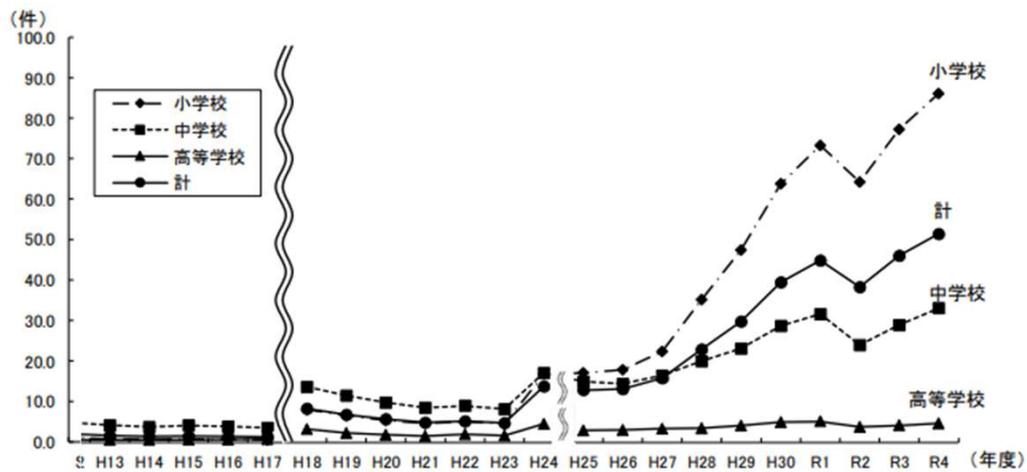
一方で、リモート座談会の実施に向けては、友達感覚の会話の中から、相談者が立ち直るきっかけを見つけることが出来るかもしれませんが、一つ一つの言葉が大きな重みとなります。そのため取り組みは慎重であるべきと考えます。さらに相談者の個人情報保護や、相談を受ける側の守秘義務の徹底など、確認・調整すべき事項が多いため、まずは先進的に実施している市町の事例など、情報収集に努めてまいりますので、議員のご理解賜りますようお願いいたします。

## 小・中学校における不登校の状況について



令和4年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果概要 (文部科学省)

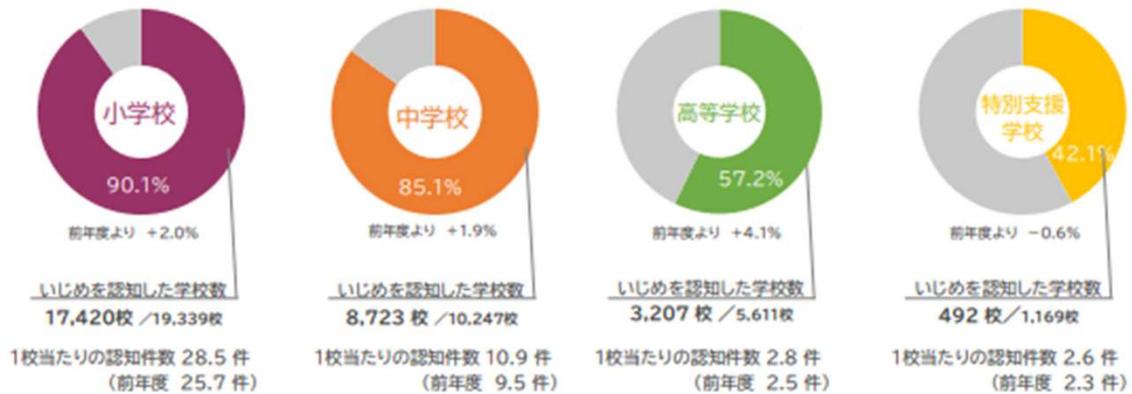
## いじめ認知（発生）率の推移（1,000人当たり）



令和4年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果 (文部科学省)

# いじめ解消状況

## 学校種別の状況



令和4年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果概要（文部科学省）